2026年度 第7回（12月）北辰テスト対策 予想問題

国語（制限時間 50分・100点満点）

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

中学三年生の悠斗（ゆうと）は、体育祭の学年リレーで、四人一組の第三走者に決まった。ところが、本番を三日後にひかえた練習で、悠斗にバトンを渡す第二走者の親友の隼人（はやと）は、バトンを落とす失敗を重ねてしまう。

夕方のグラウンドに、また乾いた音が転がった。隼人の手から離れたバトンが、白い線の上でころころと跳ね、悠斗の足もとで止まった。

「ごめん。」

隼人は下を向いたまま言った。クラスの仲間たちは、それぞれの位置から二人を見ていた。誰も何も言わない。その静けさが、かえって①隼人の肩を小さく見せていた。

「もう一回やろう。」悠斗が言うと、隼人は首を横にふった。

「おれ、走るのやめる。補欠の中川と代わってもらうよ。おれのせいで、クラスが最下位になるのは嫌なんだ。」

その声は、いつもの隼人らしくなく、かすれていた。悠斗は、一年生のころから隼人と並んで走ってきた。足の速さでは悠斗が少し上だが、バトンを渡す直前に体の向きを変える一瞬の思いきりのよさは、隼人にはかなわなかった。その隼人が、今は自分の右手を、まるで他人のもののように見つめている。

解散したあとも、悠斗はひとり残ってバトンを片づけていた。ふと見ると、グラウンドのすみで、隼人が誰もいないレーンに向かい、バトンを渡す動きをくり返していた。何度やっても、右手から左手へ移る途中でバトンが逃げていく。②悠斗は声をかけようとして、やめた。言葉でなぐさめても、あの手の震えは止まらない気がしたのだ。

悠斗はゆっくり歩み寄り、隼人の前に黙って立った。

「渡してくれ。」

隼人が顔を上げた。「でも、また……。」

「落としてもいい。おれが拾う。拾うから、お前は思いきり走ってくれ。」

隼人は何か言いかけて、口をむすんだ。そして、③バトンを悠斗の手に向けて、まっすぐ突き出した。

一度目は落ちた。二度目も落ちた。三度目に、バトンは悠斗の手のひらに吸いこまれるように収まった。二人は顔を見合わせ、どちらからともなく笑った。空はすっかり暗くなっていた。

帰り道、隼人がぽつりと言った。「おれ、みんなに迷惑をかけるのが、いちばんこわかったんだ。」

「迷惑だなんて思ってるやつ、いないよ。」悠斗は言った。「④走るのは四人でも、バトンはひとつだからな。」

隼人は黙ってうなずき、握りしめた右手を、街灯の光にかざして見つめた。

（注）レーン……競走で、一人ひとりが走る決められた道すじ。　補欠（ほけつ）……欠けた人の代わりに出るために控えている人。

問1 ①「隼人の肩を小さく見せていた」とありますが、このときの隼人の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア バトンを落とし続けたうえ、仲間の無言の視線を感じ、申し訳なさで縮こまっている様子。

イ 練習で疲れ果ててしまい、もう走る気力が残っていないと感じている様子。

ウ 何度も練習に付き合わされることに腹を立て、悠斗に対してふてくされている様子。

エ 自分の失敗を笑ってごまかそうとして、無理に明るくふるまっている様子。

問2 ②「悠斗は声をかけようとして、やめた」とありますが、悠斗が声をかけるのをやめたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア ひとりで必死に練習する隼人を見て、自分もすぐに同じ練習を始めなければと思ったから。

イ ひとりで練習する隼人に、言葉でなぐさめるよりも、行動で寄りそうほうがよいと感じたから。

ウ 隼人に気づかれると気まずくなるので、見なかったことにして帰ろうと思ったから。

エ 隼人の努力がまだ足りないと感じ、厳しいことを言ってしまいそうだったから。

問3 ③「バトンを悠斗の手に向けて、まっすぐ突き出した」とありますが、このときの隼人の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア 悠斗のことばに励まされ、失敗を恐れずにもう一度挑戦しようと心を決めた。

イ 悠斗の提案に納得できないが、断ることもできず、しぶしぶ従おうとしている。

ウ 悠斗に負けたくないという思いが強まり、対抗心を燃やしている。

エ これ以上練習を続けても無駄だと考え、悠斗に任せてあきらめた。

問4 ④「走るのは四人でも、バトンはひとつだからな」とありますが、悠斗はどのような思いでこの言葉を言いましたか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、ひとり、支えの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。なお、「支え」は「支え合って」のように形を変えて使ってもかまいません。（6点）

問5 本文の最後に「隼人は黙ってうなずき、握りしめた右手を、街灯の光にかざして見つめた」とありますが、このときの隼人の気持ちとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア 悠斗のことばを素直に信じられず、自分の力不足をあらためて痛感している。

イ 練習で手応えをつかみ、本番では悠斗に勝てるという自信が生まれている。

ウ 失敗への恐れは残りながらも、仲間に支えられていると感じ、本番にのぞむ決意を新たにしている。

エ 周りに迷惑をかけた後悔から、やはりリレーを辞退したいと考えなおしている。

問6 本文の表現や構成について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア「乾いた音」「ころころと跳ね」など、音や動きの描写によって、バトンが落ちる場面の様子を印象的に伝えている。

イ本文の大部分は、体育祭当日の場面から、練習の日々をふり返る回想の形で構成されている。

ウ「悠斗は声をかけようとして、やめた」など、悠斗の行動や思いに寄りそう形で場面が進んでいる。

エ結末で、握りしめた右手を見つめる隼人の姿を描くことで、隼人の気持ちの変化を印象づけている。

オ本文は隼人の視点から終始語られており、悠斗の考えは隼人の推測によって描かれている。

2

問1(1) 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。（各2点）

自分の身の丈に合った暮らしを心がける。（読み）

問1(2)（各2点） 胸の中で期待と不安が交錯する。（読み）

問1(3)（各2点） 陸上の大会で、日本の選手がセカイキロクを更新した。（書き）

問1(4)（各2点） 急に倒れた旅行客をカイホウする。（書き）

問2 次の文を文節に区切ると、「祖母は／庭に／咲いた／黄色い／花を／毎朝／眺めている。」となります。――部「黄色い」が修飾している文節を、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

祖母は庭に咲いた黄色い花を毎朝眺めている。

ア 庭に
イ 咲いた
ウ 花を
エ 眺めている

問3 次の文を単語に区切ったとき、付属語は全部でいくつありますか。最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

明日は友達と図書館へ行きます。

ア 2つ
イ 3つ
ウ 4つ
エ 5つ

問4 次のア～カの動詞の中から、活用の種類が上一段活用であるものをすべて選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア起きる
イ受ける
ウ借りる
エ来る
オ食べる
カ見る

問5 「洗顔」と同じ構成の熟語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア登山
イ日没
ウ温暖
エ強風

問6 「必然」の対義語（意味が反対の語）として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

ア当然
イ自然
ウ偶然
エ突然

問7⑴ N中学校の三年一組では、学級会で「文化祭のクラス企画」について話し合っています。次の【話し合いの様子】を読み、あとの⑴・⑵に答えなさい。

【話し合いの様子】

司会「今日は文化祭のクラス企画について話し合います。まず、佐藤さんから提案をお願いします。」

佐藤「はい。わたしは、お化け屋敷を提案します。ほかのクラスと重なりにくく、全員が役割を持てるからです。」

山本「お化け屋敷は楽しそうだけど、準備に時間がかかりすぎないかな。」

佐藤「たしかに時間はかかりますが、段ボールを使えば、材料は安く、短い期間でも作れると思います。」

司会「ありがとうございます。準備の日数が心配だという意見が出ましたので、先生にも、この案についてご意見を〔　Ⅰ　〕たいのですが、よろしいでしょうか。」

先生「いいですよ。ぜひ聞かせてください。」

山本「先生の意見も聞いてから、もう一度みんなで決めましょう。」

⑴ 【話し合いの様子】の空欄〔Ⅰ〕にあてはまる、先生に対する言葉として最も適切な敬語を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（3点）

アいただき
イくださり
ウなさり
エおっしゃり

問7⑵ ⑵ 司会は、この話し合いでどのような工夫をしていますか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（2点）

ア山本さんの心配を受けて、先生の意見を聞く場を設けようとしている。
イ佐藤さんの提案をそのまま採用し、すぐに準備を始めるよう指示している。
ウ山本さんの発言を無視して、佐藤さんの提案を優先させている。
エ先生の意見を聞かずに、独断で準備の日程を決めている。

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（28点）

干潟と聞いて、多くの人が思い浮かべるのは、潮が引いたあとに広がる、ただの泥の平らな土地だろう。①歩けば足が沈み、においも強い干潟は、「役に立たない場所」として扱われてきた。実際、日本では、かつて多くの干潟が埋め立てられ、港や工場の用地に変えられてきた。

しかし、泥の中をよく見ると、そこは生き物たちの暮らす豊かな世界である。アサリなどの貝やゴカイ、ごく小さな微生物が、数えきれないほど暮らしている。これらの生き物は、海水に含まれる有機物、つまり生き物の死がいやふんなどを食べて生きている。②食べるということは、水の中からそれらを取り除くということだ。

たとえば、アサリは海水を体の中に取り込み、えさになるプランクトンなどをこし取って食べている。一つ一つの働きは小さくても、干潟には膨大な数の生き物がいるので、全体では③海を巡る水を、大規模にきれいにしているのと同じことになる。さらに、泥の中の微生物は、有機物を分

解して、植物の栄養にもなる物質に変えていく。干潟は、「水をきれいにする天然の装置」と呼ぶことができる。

また、干潟には、渡り鳥が羽を休める場所としての役目もある。長い旅の途中、鳥たちは干潟で貝や小さな魚を食べて力をたくわえ、再び飛び立っていく。もし干潟が失われれば、④その影響は、貝や微生物だけでなく、鳥たちの旅にまでおよぶだろう。

干潟が「役に立たない場所」に見えていたのは、私たちが、目に見える「かたち」だけで価値を決めていたからではないだろうか。⑤見えないところで続いている働きに目を向けて初めて、私たちはそのものの本当の価値を知ることができる。そして、その価値を知ったとき、守るべきものも見えてくるはずだ。

（注）有機物（ゆうきぶつ）……生き物の体やふんなどのように、微生物などによって分解される物質。プランクトン……水中にうかんで生活している、ごく小さな生き物。

問1 ①「歩けば足が沈み、においも強い干潟は、『役に立たない場所』として扱われてきた」とありますが、干潟がそのように扱われてきたのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア調べた結果、干潟にいる生き物の数が少なく、利用価値がないとわかったから。

イ歩きにくい、においが強いなど、目に見える印象だけで、価値がないと判断していたから。

ウ干潟は渡り鳥が休むだけの場所で、人の暮らしとは関係がないと考えたから。

エ干潟が海の水をよごす原因になると、科学的に確かめられていたから。

問2 ②「食べるということは、水の中からそれらを取り除くということだ」とありますが、これはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア貝や微生物が有機物を食べることで、海水中の有機物が減り、結果として水がきれいになるということ。

イ貝や微生物が水を飲み、体の外へ有機物を出すことで、海水の量が減るということ。

ウ貝や微生物が有機物を食べすぎてしまい、干潟の泥の中の生き物が減ってしまうということ。

エ貝や微生物のえさになる有機物が少なくなり、水をきれいにする働きが弱まるということ。

問3 ③「海を巡る水を、大規模にきれいにしているのと同じ」とありますが、干潟の生き物の働きが全体では大規模に水をきれいにしているのと同じことになるのは、なぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、一つ一つ、数の二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。（6点）

問4 ④「その影響は、貝や微生物だけでなく、鳥たちの旅にまでおよぶ」とありますが、干潟が失われると渡り鳥の旅にまで影響がおよぶのはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア干潟は、渡り鳥が旅の途中で食べ物をとり力をたくわえる場所なので、失われると旅を支えられなくなるから。

イ干潟が失われると、渡り鳥が人間の生活する地域に入り込み、農作物に被害を出すようになるから。

ウ干潟にいる貝を食べる渡り鳥が増えすぎて、貝が絶滅してしまうから。

エ干潟がなくなると、海の水が増えて、渡り鳥の巣が水没してしまうから。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア冒頭で一般的な干潟のイメージを示し、それとは異なる干潟の実態を述べる形で論を進めている。

イ「たとえば」を用いて、アサリという具体例を挙げ、干潟の働きをわかりやすく説明している。

ウ筆者自身が干潟で行った調査の体験談を中心に述べ、体験の積み重ねで主張を示している。

エ最後の段落で、干潟の例から、ものの価値の見方という一般的な主張へ話を広げている。

問6 本文全体の内容に合う筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（5点）

ア干潟は水をきれいにし、渡り鳥の休息の場にもなる大切な場所なので、見かけだけで価値を決めず、その働きに目を向けて守っていくべきだ。

イ干潟は歩きにくく、においも強いので、港や工場の用地に変えて活用するほうが、人間の役に立つ。

ウ干潟の貝や微生物を増やすことが水質を改善する最も効果的な方法なので、干潟を新しくつくる必要がある。

エ渡り鳥は干潟だけで暮らしているので、干潟を守ることは渡り鳥のためだけに行うべきだ。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（カッコ内は口語訳です。）（16点）

昔、ある山里に、猟師ありけり。ある日、山に入りて、①鹿を追ふうちに、道に迷ひて、日も暮れぬ。（昔、ある山里に、猟師がいた。ある日、山に入って、鹿を追ううちに、道に迷って、日も暮れてしまった。）

遥かに灯のかすかに見えければ、これを頼りて行くに、小さき庵あり。老いたる法師、出で来て、「いかなる人ぞ」と問ふ。猟師、「山にて道に迷ひ、日も暮れ侍りぬ。一夜の宿を貸してくだされ」と言ふ。法師、「あはれなることかな。まづ入り給へ」とて、②火をおこし、粥を煮て食はせけり。（はるか遠くにかすかな灯が見えたので、これを頼りに行くと、小さな庵があった。年老いた法師が出てきて、「どういう人か」と尋ねる。猟師は、「山で道に迷い、日も暮れてしまいました。一

晩の宿を貸してください」と言う。法師は、「気の毒なことだ。まず入りなさい」と言って、火をおこし、粥を煮て食べさせた。）

猟師、粥を食ひて、ほとほと生き返る心地しけり。思ふやう、「われは日ごろ、命ある鹿を追ひて世を渡る身なり。この法師は、わが身をば知らで、かくまで情けをかけ給ふ。③わが業のいかに浅ましかりけるか」と、恥づかしく思ひけり。（猟師は、粥を食べて、ほとんど生き返る心地がした。思うことには、「私は日ごろ、命ある鹿を追って生計を立てる身である。この法師は、私の素性も知らずに、これほどまでに情けをかけてくださる。私の仕事は、どれほど浅ましいものだったことか」と、恥ずかしく思った。）

夜明けて、猟師、法師に礼を言ひて去りぬ。その後、猟師は弓を捨て、田を耕して暮らしけり。④人の心を動かすは、言葉よりも、情けある行ひなり、と語り伝へたり。（夜が明けて、猟師は、法師に礼を言って立ち去った。その後、猟師は弓を捨て、田を耕して暮らした。人の心を動かすのは、言葉よりも、思いやりのある行いである、と語り伝えられている。）

（注）庵（いおり）……僧などが住む、小さくそまつな家。　法師（ほうし）……仏の道に入った人。僧。　業（わざ）……仕事。行い。

問1 ①「鹿を追ふうちに、道に迷ひて」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。（4点）

問2 ②「火をおこし、粥を煮て食はせけり」の主語として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア猟師
イ老いたる法師
ウ里の人
エ鹿

問3 ③「わが業のいかに浅ましかりけるか」とありますが、猟師がこのように思ったのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。（4点）

問4 ④「人の心を動かすは、言葉よりも、情けある行ひなり」とありますが、この話が伝えている教えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

ア山で道に迷ったときは、遠くに見える灯を決して頼りにしてはならない。
イ人の心を動かすには、相手に深く心にしみる、すぐれた言葉を語ることが大切である。
ウ人の心を動かすのは、巧みな言葉よりも、相手を思いやる行いである。
エ自分の仕事は、どんな事情があっても、決して変えてはならない。

（以上で問題は終わりです。）